

SNSを組み込んだ写真作品の制作プロセスについて

大阪芸術大学 大学院 嘱託助手 藪口雄也

1 はじめに

本研究では、一般的なソーシャルメディアの特性を調べ、芸術活動を行う上で、写真作品の制作プロセスに SNS を組み込むことで、どのような効果が得られるかを考察した。

今日、スマートフォンの普及により SNS (social networking service) を多くの人々が使用している。SNS は主に、コミュニケーションやメディア媒体として使用されることが殆どである。SNS には数多くの種類があり、それぞれに特徴がある。使用用途により、数ある SNS の中から、その用途にあったものを選ぶ必要が出てくる。今回の研究では、Facebook・Twitter・Instagram の3つを取り上げる。

申請者は、犬や猫の殺処分をテーマにした作品を制作しており、できるだけ多くの人に発信したいと活動をしている。SNS を用いて作品の発信をする際、どのような点を意識するかを考察した。

2 Facebook・Twitter・Instagram の特徴について

SNS には数多くの種類があり、それぞれに特徴がある。SNS の中でも世界的に多くの人々が使用している Facebook・Twitter・Instagram の3つを取り上げ、それぞれの特徴を分析した。

(1) Facebook

投稿された画像は文章の下に配置される。

数多くの種類がある SNS の中で、唯一、実名でアカウント登録を行う必要があり、それにより投稿される情報の信頼性が高くなっている。

(2) Twitter

投稿された画像は文章の下に配置される。時系列順 (新しい記事が上) に投稿記事が並ぶ。匿名で登録することができるので、複数のアカウントを所持しやすい。投稿の際に打ち込むことができる文字に制限がある。# (ハッシュタグ) を付けることで検索機能が使用でき、繋がりのない人の投稿を見ることができる。

(3) Instagram

投稿は写真や動画が中心。横に3枚ずつ並び、時系列は左から右にかけて古い写真が来る様になっている。また、上から下に古い写真が並ぶようになっている。(一番右下の写真が一番古い) 匿名で登録することができるので、複数のアカウントを所持しやすい。投稿の際に打ち込むことができる文字に制限がある。# (ハッシュタグ) を付けることで検索機能が使用でき、繋がりのない人の投稿を見ることができる。

以上を踏まえ、写真作品の制作プロセスに SNS を組み込むことで、どのような効果が得られるかを考察した。

3 『コンテナの中の瞳』『カタチ』について

申請者の作品『コンテナの中の瞳』『カタチ』は、犬や猫の殺処分をテーマにした作品である。制作を始

めた2010年(平成22年度)では1年間に204,693匹(環境省統計資料より)、2018年(平成30年度)では1年間に38,444匹(環境省統計資料より)が殺処分されている。年々、殺処分数は減少してきているが、この社会問題は記憶として人々の中に残す必要があると申請者は考えている。この作品を世間に公開するには多くの人々が鑑賞し、このテーマについて考えてもらえればと考えている。

現在、この2作品は撮影を終えており、『コンテナの中の瞳』においては個展示やグループ展、出版などの経験がある。『カタチ』は制作を終え、発信の方法を考察している。

この2作品の最終的なアウトプットは空間全体で見せる展示作品になるが、多くの人に発信することを考えると、展示の前に SNS を用いたプロセスを挟むことが効果的だと考えた。それぞれの作品とそれぞれの SNS の相性を考察した。

(1) 『コンテナの中の瞳』

『コンテナの中の瞳』は、施設にいる犬の顔だけに焦点を当て撮影した作品。展示ではグリッド状に犬の顔を並べ、作品を見る側である鑑賞者が作品に見つめられる空間を意識した。この作品では、犬たちの置かれている環境や状況を細かく説明するのではなく、「この犬たちは施設の犬です。」の一文を最後に読ませる事を意識している。

グリッド状での展示方法を考えると、Instagramでの投稿・発信が一番向いていると考えた。

(2) 『カタチ』

『カタチ』は、殺処分後に焼却された犬や猫の骨や装飾品、また、生前に悪くしていた臓器の焼け残りを撮影した作品。展示では、臓器の焼け残り→遺骨→装飾品の順番で並べ、最後に「これらは殺処分された犬や猫の焼却後の姿である」の一文を最後に読ませる事を意識している。

展示方法はグリッド状ではないが、Instagramでの投稿・発信が纏まるのではないかと考えた。

4 課題

芸術活動を行う上で、写真作品の制作プロセスに SNS を組み込むことで、どのような効果が得られるかを考察してきたが、それぞれの SNS が持つ特徴を考慮し、複数の SNS を使用していく必要があると感じた。そのためには、それぞれ使用する SNS の役割を考えて運用する必要が出てくる。

今回の研究を元に Facebook・Twitter・Instagram の3つにそれぞれ役割を与え、作品や活動を発信していく必要があると感じた。

SNS を取り入れることにより、制作の最終プロセスである展示や出版にどのような影響を与えるかを、研究・検証する必要があると考える。